

酒類・食品 & News 解説

週刊

令和8年1月2・9日(金曜日) 第3477号

(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)

毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健

購読料 6ヵ月 15,730円(税込み)

振替番号 東京4-71739

発行所 株式会社 日刊経済通信社

本社 東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋川ビル

☎03(5847)6611(代) FAX 03(5847)6600

名古屋支局 ☎052(253)6924 大阪支局 ☎06(6353)1791

http://www.nikkankeizai.co.jp/

今年度の酒類食品総合卸売業は、扱い商品の価格改定による販売数量減への対策と小売業の業界再編、エリアを超えた進出へのスムーズな対応などが注目点となる。

主要卸売業の25年度業績は増収・増益傾向で概ね推移している。

これは酒類食品関連の25年間の価格改定・値上げ品目は2万品目を超えたこ

酒類食品総合卸売業

とも大きく寄与した。扱い

品目の値上げは増収につながり、売上総利益も増えるわけで増収・増益の主因となっている。

26年も第1四半期までは断続的に値上げが続く見通しにある。一方で継続している「販売数量の減少」が多くの卸売業トップから、懸念材料として挙げられている。そして物流費に特化すると、「販売数量減」物流減」であり、恩恵をもた

らしている部分も大きい。仮に価格改定の流れが落ち着くと、再び上昇といった局面を迎えることになる。

商品の販売数量減は、値上げによる部分が大きく、容量減での価格据え置きもそろそろ限界を迎えている。商品値上げに関してはインフレ要因も大きい。過去30年ほど閉じられていた「バンドラの箱」が開き、その後複数回の改定で「値上げ慣れではないか」と指摘する声も、ここへ来てチ

また、小売業の再編も卸売業には気になるところ。具体名は避けるが、運営母体が変われば方針も変わる。帳合変更も充分にあり得る。

ここにドラッグやDSは

か、海外資本なども絡むわけで、なにがあっても驚けない世の中だ。

そして「九州から関西、関東」「中部から関東」「関東から関西」など、これまでのエリアの雄・リジョナルの雄が、その勢いのまま新天地に乗り込み出店する話題も相次いだ。商圏のパワーバランスも変わる可能性があるし、こちらの帳合獲得合戦後は、卸売業の業界地図にも変化が生まれるかもしれない。そんな節目とも考えられる2026年でもある。

(松丸浩二)

主要各社業績堅調、価格改定寄与



久月浅草橋總本店

猛暑、短い秋、冬眠しない熊が日常になり、地政学的なリスクは常時顕在化、価格改定の波はやむことがないまま、2026年の幕が開いた。コーヒード豆やカカオ豆、オリブは高止まりの状態、天候不順ともなれば、相場が跳ね上がる

状況だ。米の高騰も続いている。消費者の節約志向が継続。酒類・食品産業を取り巻く状況は厳しいと言わざるを得ない。

外食産業は好調が続いているものの、日中関係の悪化が影を落とす。トラックドライバー不足に拍車をかけるともいわれる物流の2026年問題

'26年の酒類食品産業 食文化がわたしたちを笑顔に

主な内容

2026年酒類食品業界13面

(酒類食品、焼酎、本格、ワイン、洋酒、自販機、発酵乳、豆乳、コーヒード豆、飲料用PE、ミネラル、野菜果汁、炭酸、茶系、即席、加工品、うゆ、みそ、即席麺、

など、課題は山積しているが、例えば、カカオ豆不足に対しては、代替脂を供給するなど、これまでの技術力を生かした製品開発が続けられている。

今年は、冬季五輪・パ

今年、冬季五輪・パ

(川田岳郎)

マヨネーズ類、流通、チーズ	14面
新響 株式会社 前鶴社長	15面
卸売業 明治屋 磯野社長	16面
卸売業 伊藤忠 品岡社長	17面
卸売業 日本ア 服部社長	18面
卸売業 三井物産 柴田社長	19面
卸売業 三井物産 柴田社長	5面
卸売業 三井物産 柴田社長	5面

2026年の展望

5面

19面

18面

17面